

令和 6 年度

「運営に関する計画」

（中間評価）

大阪市立西中島小学校

令和 6 年 1 1 月

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R5 75%) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 83%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流に取り組み、学校生活の様々な場面で達成感を味わえる取り組みを行う。(安全教育の推進)		A
指標 全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流を月1回以上取り組む。		
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・スクリーニングの実施や児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応及び学習機会の確保を進める。(不登校への対応)		A
指標 月1回、スクリーニング会議を実施し、児童についての情報共有の場を設ける。		
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・人権教育を推進し、自己肯定感を高める取り組みを行う。(道徳教育の推進)		B
指標 1学期はいじめについて、2学期は自尊感情について、3学期は人権について考える取り組みを行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①6年生による全校遊びの取り組みや、NSTの取り組みで全校の仲が深まるような取り組みができています。学習でも隣接学年による音楽の合奏や、道徳、体育の授業、その他の教科での発表の活動に取り組んでいる。また、給食での交流も隣接学年同士で行っている。どの児童も自分の得意とするところで活躍したり、役割をもって活動したりすることができている。「学校に行くのが楽しい」と答える児童は94%にのびた。		
②毎月スクリーニング会議を実施し、配慮を要する児童の組織での情報共有に努めるとともに、オンライン学習を含めた細かい対応ができています。区役所など、他の機関とも連携しながら対応を続けている。		
③「いじめを考える日」には全校で、いじめの教材を使った取り組みを行った。		
後期へ向けての改善点		
①今後も交流を続け、異学年の交流に努め、達成感を味わうことができるようにする。		
②引き続き、配慮を要する児童への連携を密にし、組織で情報を共有し、他機関とも連携していく。		
③2学期は人権週間でのいいところみつけ、3学期は人権教育を実施していく。また、		

日々の声かけの中で互いの良さを見つけていけるような声かけをしていくようにする。強調週間だけでなく、最重要目標にある自己肯定感が高められるよう、教職員全員が意識する。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合38%以上にする。(R5…36.8%)・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を30%以上にする。(R5…25%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容① ぐんぐんタイムや朝学習を利用して、個々に応じた基礎基本の定着を図る。		B
指標 校内児童アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができた」の肯定的な回答を 80 パーセント以上にする。		
取組内容② 自分の考えを持ち表現する力を育むようにする。		A
指標 校内児童アンケートにおいて、「みんなの前で自分の考えを発表することができていますか。」の肯定的な回答が 80%以上となる。		
取組内容③ 生活習慣を整え、いろいろな活動を通して、体を動かすことの喜びを知り、楽しく運動やスポーツに取り組む子どもを育てる。		B
指標 ・週に 1 回の清潔調べを基に自分の生活習慣を振り返り、基本的生活習慣の意識の向上をはかる。 ・児童が休み時間に運動場で遊ぶことが可能な日数の中で、校内児童アンケートの「積極的に体を動かすことができた」と肯定的に回答する児童の割合を 81%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 校内児童アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができた」の肯定的な回答は 84.2%だった。プリントやデジタルドリルなどを活用し、自分で課題を選び、主体的に学習に取り組むことができています。目標を上回ることができたが、数値のさらなる向上を目指して、否定的な回答をした児童の実態を把握し、声掛け等をしていく。		
② 校内児童アンケートにおいて、「みんなの前で自分の考えを発表することができていますか。」の肯定的な回答は 92.1%で、目標を上回ることができた。場面に応じて発表の仕		

方や、意見の交流の仕方を工夫することにより、多くに児童が自分の考えを進んで発表することができている。

- ③ 清潔調べにより、基本的生活習慣への意識づけはできているが、基本的生活習慣の確立が難しい児童が固定化しつつあるので、個別での声掛けの必要もある。
「積極的に体を動かすことができた」と肯定的に回答する児童の割合は 76.3%だった。暑さのため、運動場で遊ぶことの声掛けができないこともあったためと考えられる。

後期へ向けての改善点

- ① 引き続き、自分に応じた課題を選び、進んで学習できるよう、プリントやデジタルドリルなどでの課題を提供する。
- ② 今後も自分の考えを持ち、表現する力が育めるように、授業の組み立て、話し合いの形態などの工夫をしていく。
- ③ 清潔調べは引き続き行い、集計結果を活用し、より一層の意識の向上を図る。また、基本的生活習慣の確立が難しい児童もいるので、強調週間や長期休みの生活リズムチェックシートを利用するなどして家庭への啓発も続けていく。委員会の活動としても、全体への呼びかけを続ける。
- NST やみんな遊びなどの取り組みを通して、運動場で遊ぶ楽しさを味わわせる工夫をしていく。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く] (R5…82%) ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%以上にする。(R5…80%) ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5…73%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT機器を使用して、説明力を高めるなど表現の幅を広げたり、端末を活用した学習に取り組んだりする。 (ICTを活用した教育の推進) <hr/> 指標 ICT機器を活用して、説明や自分の考えを発信したり、他者の情報を受けて、意見交流をしたりする。クラスや委員会活動で、学期に1回 ICT 機器を活用した発表の機会を設ける。普段の学校生活において、心の天気を入力する習慣を身につけるなど、1日1回学習者用端末を使用する。	A
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ゆとりの日を設定し、時間外勤務時間を減らす。 <hr/> 指標 ・ゆとりの日を月に2回以上設定・実施し、教員の一人当たり平均時間外勤務時間の自校と大阪市平均より短縮させる。	A
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ・学校司書とも協力し、読書に対する興味関心を高め、読書好きな児童を増やす取り組みを行う。 <hr/> 指標 ・学期に1回、図書に関する取り組みを行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 教育委員会が提示する本校における『学習者用端末及び学習システム利用状況』によると、毎月平均85%以上を超える学習者用端末利用率となっている(5月85.0%、6月86.4%、7月87.4%)。児童の利活用として、まなびのポータルよりデジタルドリルの活用(月平均6回)や、グーグルドライブのファイル操作数(月平均51回)からほぼ毎日活用した数値となっている。また、クラスや委員会発表でのプレゼンテーションの作成、スカイメニューやジャムボードなど様々なコンテンツを効果的に活用している。心の天気を入力する習慣化も全学年がほぼできつつ、日々の児童の心の変化を知ることや、発表が苦手な児童も ICT 機器を活用することで意欲的に取り組めるよ

うになった。

- ② 今年度も引き続き、ゆとりの日を毎月2回設定し、月中行事に取り込んでいる。また、教育委員会が提示する本校における『教員の時間外勤務時間の状況について』では、大阪市内累計平均時間より12時間近く短縮している。(4月～8月までの大阪市内累計平均時間24時間、本校累計平均時間12時間24分)。この数値は、昨年度の自校累計平均時間より4時間近く短縮することができた。(昨年度16時間40分、今年度12時間24分)。また、上限に関する基準1の達成率(月30時間以下)においても、100%と長時間勤務解消の取り組めたことが分かる。その背景として、フレックス時間を活用したり、それぞれの仕事分担ができたりして、時間外勤務時間を減らせたからと考えられる。
- ③ 9月の校内児童アンケート『読書は好きですか。』に対して、とても好き・好きと肯定的に回答する児童の割合は90%を示し、昨年度の中期回答72%より大幅に上がっている。興味関心が高まった理由として、学校司書との連携や、図書委員会の取り組みが考えられる。学校司書との連携として、季節の掲示や本の紹介が定期的に行われ、図書室の雰囲気明るく使いやすい環境に整えられた。図書委員会の取り組みとして、1学期はおすすめの本の紹介と折り紙教室、2学期は本に関するクイズを行ったこと、またほぼ毎日図書室開放し、放送で全校児童に呼びかけたなど、様々な取り組みによって、図書室に来室する回数を増やし、本を手にする回数も増えたからと考えられる。

後期へ向けての改善点

- ① 今後も継続してICT機器を活用する機会を多く取り入れる。そのためICT支援員など外部人材の活用や連携の強化も進める。また、心の天気を全児童が入力できているかなど教職員全員が確認しながら、引き続き心の天気の入力するよう声掛けを行う。
- ② 今後も月2回ゆとりの日を設定、実行していく。ゆとりの日も通常時と変わらない時間に業務を終える教職員もいる中、教職員全体が時間外勤務時間の短縮することができるよう、時間を捻出する工夫するなど、余裕をもって子どもたちをみていけるように取り組んでいく。
- ③ 今後も学校司書と連携し、読書に対する興味関心を高めていく。今後の取り組みとして、読書週間を設定し、図書委員会を中心に、児童集会でおすすめの本の紹介を行うなど様々な取り組みを行い、読書に興味関心を高めながら、本を読むことがいつでもできる環境づくりを引き続き取り組んでいく。